

6月になりました。見上げる空の色が、いつのまにか梅雨の気配を感じさせるこの頃です。先日の“台風6号”接近の際は、開園状況について 前夜の 急な連絡にもかかわらず皆様にご理解とご協力をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

これからの季節は おそらく 大型台風の直撃や接近、豪雨など 今回のような悪天候等により緊急の警戒や避難が必要となる可能性が高まると考えています。何よりも、子ども達、また保護者の皆様、並びに 職員の、安全確保を第一に考え、早めの検討と判断で備えられるよう速やかに対応してまいりますので、今後とも、ご理解とご協力の程 よろしく願います。

さて、今週末の12日(金)には、今年度も『花の日・こどもの日礼拝』を予定しています。この礼拝は、キリスト教行事の一つで、1856年に アメリカのレナードという牧師先生が、世界中の子ども達の 心身の健やかな成長を願う特別礼拝を 6月の第2日曜に行ったことが始まりでした。そして その後の1870年に、マサチューセッツの教会において 子ども達ひとりひとりの 小さな心や個性を、色とりどりの花々一つひとつの美しさと清らかさに重ね、その成長(生長)を祝福する「シャロンのバラの礼拝」が行われました。両日が同じ6月の第2日曜日であったことから、やがて『花の日・こどもの日礼拝』として、全世界のキリスト教会や 幼稚園・保育園などの施設にも広まっていき、現在に至っています。

イエス・キリストは 誰よりも子どもを愛されました。いつでも 子どもを喜び祝福されました。また、世の中で 弱い立場にいる人や 貧しい人 物言えない小さな存在にこそ 目を留められ どんな時も 真っ先に手を差し伸べられ、慈しみ 護り 大切にされました。このイエスさまのみこころと深い愛を あらわしていこうと、イエスさまを信じ 後に続いた人々が その想いを決して忘れることなく いつまでも大切に覚え、祈りを一つにしていこうと行われて来たのがこの記念礼拝です。時が流れ 世の中が変わろうと、いつの時代に在っても 子どもの存在はわたしたちの宝であり、輝く未来であり、永遠の希望です。子ども達への 愛と感謝を込め、美しく可憐な花の命と重ねて、全世界のキリスト教会では 6月14日(日)にお祝いされます。つのぶえ保育園でも 全園児と職員が一堂に揃い、心静かに温かな礼拝のひと時を過ごします。(別紙にて各ご家庭にお願いしていますが、前日迄に お花をお持ちいただければ感謝です) 子ども達がそれぞれに持ち寄った 色々なお花たちを 皆でお部屋に飾り、神さまが造られた小さな命に囲まれながら、神さまが与えてくださった 愛する子ども達との出会いに感謝して 愛おしいひとりひとりへ 私達の想いを捧げる礼拝を行いたいと今から楽しみにしています。世界中のすべての子どもの上に 神さまの祝福が豊かに注がれますよう 心よりお祈りします。

「イエスは 小さい子どもを 呼び寄せ、彼らの真ん中に 立たせて 言われた。・・・

子どものように 自分を低くする者が 天の御国で 一番 偉い人です。

また だれでも このような 子どものひとりを 私の名のゆえに 受け入れる者は

わたしを 受け入れるのです。(新約・マタイ伝 18:3-5)」 (石田 記)